

一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス事業報告書

1 2024年度概括

- ・サポートオフィスは2019年4月に開設し、2024年度で5周年を迎えた。これに伴い、5周年記念イベントの開催および記念冊子の発行を行った。イベントでは、参加者同士の対話の時間を多く取り入れた。メインイベントとして「フィッシュボウルトーク」を導入し、サポートオフィスが重視している「参加」「対話」を周知する機会となった。
- ・まちだづくり応援基金による助成がスタートし、8事業（助成額397,000円）に助成を実施した。中間交流会、最終報告会、チャリティーイベントなど、助成対象活動の交流や成果報告の機会を積極的に開催した。
- ・月1回開催している「まちカフェ！オープンデー」では、日中の参加が難しい層もあることから、7月と8月に「ナイトオープンデー」を13時00分～20時00分（通常は10時00分～17時00分）に開催し、新たな層の参加につながった。
- ・2023年度まちだづくりカレッジ「アドバンスコース」の参加を通じて立ち上がった、町田市内の子ども関係団体の連携「まちだ子どもアクション」の支援を継続し、子ども関係団体が集まり、協働により子どもにやさしいまちの実現をめざすフォーラム「聴けてる？子どもの声 届いてる？わたしの声 ～子どもと共にありたい大人の学び場」を開催し、約50名が参加、ネットワーク構築の第一歩となった。
- ・2022年度から実施しているトークセッション型セミナー「みんなの経験共有会」では、新たに町田市で長く活動している市民活動団体の方をゲストに招き、その運営のコツを聞く「温故知新」シリーズを開始した。参加者アンケートでは、「非常に満足」79%、「満足」が21%と、満足度が高い企画となった。「活動は知っていても立ち上げ当初の話は初めて聞いた」、「活動の参考になるヒントが多かった」などの声があり、経験者の声を地域で共有するという目的を達成できた。開催方法には、対面、オンライン、ハイブリッド、アーカイブ視聴など多様な方法を導入した。
- ・まちカフェ！オープンデーで新たな企画「まちカフェ！インクルーシブ研究会」を開始した。まちカフェ！参加団体からの「まちカフェ！が誰でも心地よく参加できる場になるために、参加団体が学ぶ場を企画してほしい」という声を受けて実施された企画で、インクルーシブな場づくりのヒントを得るために当事者を中心としたゲストから話を聞き、参加者で考えを深めるプログラムを実施した。参加者アンケートの結果、「非常に満足」89%、「満足」11%と高い満足度を得た。また、まちカフェ！参加団体の中から「次回はゲストとして話がしたい」という声が上がっており、まちカフェ！参加団体の中で浸透した。

- ・事務局を担っている町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」は、**過去最多の参加団体146団体、169企画、来場者9,667名**となった。小川高校の高校生のボランティア参加や、南成瀬中学校の中学生による取材など、教育機関との連携による学びの場としての活用が進んだ。
- ・市民生活安全課の委託により、2022年度から実施してきた「ふだんの活動にプラスON交通安全・防犯協働事業」の最終年となった。**3年間累計で全50事業61回の企画を実施し、延べ3,324名の方に啓発を行った。**

2 活動日数

2024年4月1日～2025年3月31日（12ヵ月、243営業日）

3 事業報告

（1）地域活動に関するコーディネート事業

ア 相談対応【実施目標 年間150件程度 → 実績年間207件】

（2023年度246件）

来訪相談 167件、アウトリーチによる相談・ヒアリング 40件

内訳（複数選択可）

事業相談65件、意見交換／情報交換89件、助成金相談／資金獲得17件、WS等開催支援2件、設立相談8件、情報発信5件、社会貢献5件、その他20件

イ 協働事業の支援

- ・町田市地域活動サポートオフィス5周年記念イベント

5月24日、町田市生涯学習センター7階ホールにて「サポートオフィス5周年記念イベント」を開催し、市内外から85名が参加。イベントでは、参加者同士の自己紹介タイムや、良質な対話を深め、その内容を全体で共有する対話手法「フィッシュボウルトーク」など、サポートオフィスが日頃から大切にしている「参加」と「対話」を中心としたプログラムを実施。多くの交流が生まれる時間となった。



・まちカフェ！オープンデー 【実施目標 年10回 → 実績年12回】

協働事業を生み出す場として、毎月第1木曜日、町田市役所2階市民協働おうえんルームにて「まちカフェ！オープンデー」を開催。市役所開催の強みを活かし、市の職員の方を講師にお招きした講座やまちカフェ！参加団体による持ち込み企画などを実施。オープンデーの多様な活動や取り組みの発信や交流の場としての機能が高まった。

市役所開催のため、庁内からの相談も定期的にあった。具体的な成果として選挙管理委員会からの相談から若い世代が「選挙啓発バースデーカード」のデザインを作成するプロジェクトを立ち上げ、大学生を中心とする若い世代の意見を取り入れ現役大学生がデザインをしたカードが完成した。

・地区への支援

鶴川地区ハッピーフライデーに継続参加し、「名刺作り講座」の実施および地域の中학생と大人の対話の場「トークフォークダンス」の進行役を務めた。また、みなみ地区社会福祉協議会が開催する「夢サポートひろば」において、9月に開催された＜活動団体情報交換会＞、10月に開催された＜南地区おしゃべり会＞の実施をサポートした。



▲鶴川ハッピーフライデー内で開催した中학생と大人の対話の場「トークフォークダンス」



▲夢サポートひろば内で開催した「活動団体情報交換会」

・教育機関との連携

＜大学＞

2023年度に引き続き、昭和薬科大学と連携し「昭和薬科大学地域活動実践プログラム」を実施。14名の学生が11団体で活動を行った。アンケートに回答した学生10名中、8名が「満足」、2名が「やや満足」と回答した。2年間継続して本プログラムに参加したり、昨年度の受け入れ団体での活動を継続したりする学生も複数名おり、本プログラムを通して地域活動への積極的な参加につながったことが伺える。

新たに、法政大学ソーシャル・イノベーションセンターが実施しているSIC教育プログラム「チェンジメーカーズラボ in 多摩（通称：たまらぼ）」に伴走支援者として参加し、事業提案をした学生3チームの伴走支援を実施した。

<高校>

2023年度に引き続き、小川高校「奉仕体験」授業のコーディネートをを行い、高校1年生約320名が地域で奉仕体験を行った。また、まちカフェ！でも16名が活動した。

<中学校>

南成瀬中学校の課外活動としてまちカフェ！当日の取材ボランティアを受け入れた。また新たに、南中学校の職場体験を受け入れ、中学生とともに4つの市民活動団体を取材し、取材結果を中学生がまとめてサポートオフィス前の廊下に掲示した。後日、中学生が再度来訪され、職場体験の代表として学校内で発表を行った旨の報告があった。



▲職場体験をした南中学校の生徒が作成した取材レポート。

<小学校>

忠生小学校のSDGs学習の中で「ボランティア」に関する授業を実施。あわせて6年生が制作したSDGsに関するパンフレットに「町田市地域活動サポートオフィス賞」を授与した。

(2) 地域活動に関する情報収集及び発信事業

ア 5周年誌「5周年記念アニバーサリーブック」の作成

サポートオフィスの5年間の振り返り及び、町田の地域活動の現状をまとめた5周年記念誌を発行した。サポートオフィスの5年間の活動から見えたコーディネートのポイントをまとめた「地域をつなぐ7つの心がまえ」「地域をつなぐ5つのアクション」は、他組織から依頼のあったコーディネートや協力についての講演の際にも活用した。

【実施目標：発行年1回／1，500部→実績：発行年1回／1，500部】



▲「5周年記念アニバーサリーブック」表紙・裏表紙と職員座談会ページ

イ 広報誌の作成

5周年誌を発行するため、通常版（A3二つ折り仕上がりA4 4ページ）を7回、簡易版（A4両面 2ページ）を3回発行した。

【実施目標：発行年10回以上／各回1,500部

→実績：発行年10回／各回1,500部】

<各号内容>

	発行号	主な掲載内容
1	47号	2024年度 サポートオフィスが主催する講座・イベント情報
2	48号	サポートオフィス設立5周年記念イベントを開催しました
3	49号	第18回 町田市市民協働フェスティバルまちカフェ！実行委員会、発足！
4	50号	まちカフェ！インクルーシブ研究会 vol. 3を開催しました ～子どもが安心してきて心地よく過ごせる場づくりのヒント～
5	51号	まちカフェ！インクルーシブ研究会（略してまち研）の開催から見てきた 〈誰もが安心して参加できるイベントを行うポイント〉
6	52号	地域の取り組み・仕組み大解剖 vol. 1～地区協議会
7	53号	参加者全員がもっとに関わりたくなる活動づくりのヒント
8	54号	まちカフェ！参加団体のチラシから学ぶ～チラシづくり5つの工夫
9	55号	地域活動を後押する 町田市民フォーラム内の支援組織大解剖
10	56号	まちだづくり応援基金第2期が始まります！

ウ ホームページ運営及びSNS・メルマガ等を活用した情報発信

- ・サポートオフィス主催講座の開催報告の記録を中心にウェブコンテンツ化し、参加者以外も活用できる情報を発信した。特に「みんなの経験共有会」、「まちカフェ！インクルーシブ研究会」は、当日の内容の大部分を記事化し、ホームページ等で公開。また、その中から得たポイントをまとめてサポートオフィス通信に掲載し、紙媒体とホームページの連動性をもたせた。また、トップページのデザインの見直し、ホームページ内での検索機能の設置など情報のストックが増えたことに伴い視認性、検索性を高める改訂を行った。

【実施目標：100件→実績：106件】

- ・SNSの双方向性を活かした情報発信を充実させ、ニーズや状況に即した新たなツールの導入を検討。まちカフェ！の広報として音声配信アプリ「stand.fm」（同内容をYouTubeにも展

開)の活用、まちカフェ！実行委員会への連絡ツールとして「LINE オープンチャット」の活用を行った。

【実施目標：新規 SNS の導入検討→実績 新規 SNS 導入 2 種類】

<ホームページ> 掲載総数：106件

イベント 告知記事	イベント等 実施報告	団体訪問 レポート	コラム	ニュース	その他
32	44	8	2	18	2

2025年3月よりアクセス解析ツールを導入した。

<SNS>

Facebook フォロワー 1, 795 件（前年度比 89 件増）

X フォロー 1, 098 件（前年度比 50 件増）

Instagram フォロワー 1, 456 件（前年度比 227 件増）

<メルマガ> サポートオフィス通信発行、講座案内等を中心に発行 年14回発行

(3) 地域活動を行う組織の基盤強化及び人材育成事業

ア 講座の実施【目標年16回開催 →実績23回開催】

ー開催数内訳ー

① 団体の事業計画を策定する伴走型連続講座まちだづくりカレッジ

【実績：プログラム2種(2回)開催】(全5回×2コース=計10回 成果：計画策定(組織づくりコース)4団体・ナリワイ策定(ナリワイづくりコース)8名)

2023年度に試行実施した個人向けの「ナリワイづくりコース」を本格実施し8名が参加。8名全員がナリワイ事業計画を策定し、実際に7名がナリワイ(自身の好きなこと・得意なこと×地域の小さな困りごとをかけあわせてスモールビジネス)をスタートした。内訳は、地域の居場所づくり(2名)、ITや映像などの専門支援(1名)、イベント開催(3名)、家事支援(1名)。また、ナリワイづくりコースは、同様のプログラムを実施している全国の取り組みとの情報交換も積極的にすすめた。

ナリワイづくりコース(個人向け)	組織づくりコース(団体向け)
Day1 オリエンテーション／自分の「好き」を掘り下げる<講師：井東敬子氏>	Day1 オリエンテーション／団体のビジョン・ミッションを考える

Day2 事業を届けたいたった一人のペルソナを考える	Day2 事業計画や広報に効果的な事業のターゲット・ペルソナを考える
Day3 ナリワイ事業計画を作る (収支計画・価格設定・体験ワーク)	Day3 事業を広く継続的に進めていくためのステークホルダーを考える
Day4 助成プログラム申請を視野に入れた事業計画の策定	Day4 事業計画のブラッシュアップ
Day5 最終報告を実施	



▲全国のナリワイづくりと同様のプログラムを掲載したマップとプログラムが生み出した成果をまとめたパンフレット

- ② まちだづくりサロン特別編「参加者全員がもっと関わりたくなる活動づくりのヒント」【実績：1回開催】

(講師：西川正氏 (NPO 法人ハズオン埼玉副代表理事・真庭市中央図書館館長も務める))

- ③ <新企画> みんなの経験共有会「温故知新シリーズ」【実績：5回開催】

町田市内で活動する団体・個人の経験を共有することを目的として2022年より開催。2024年度は新たに<温故知新シリーズ>としてこの先も町田で語り継いでいきたい活動をしている地域活動の先輩をゲストにお招きし話しいただいた。

1	vol. 17 まちだの冒険遊び場と子ども真ん中の取り組みの歩み
2	vol. 18 福祉の町田を担った市民たち第1弾～町田すまいの会のあゆみ～
3	vol. 19 福祉の町田を担った市民たち第2弾～町田ハンディキャブ友の会～
4	vol. 20 町田のまちづくり～玉川学園地区まちづくりの会のあゆみ～
5	vol. 21 福祉の町田を担った市民たち第3弾～認知症とともに生きるまちづくりのあゆみ～

④ <新企画>まちカフェ！インクルーシブ研究会 【実績：5回開催】

まちカフェ！参加団体から「まちカフェ！が誰でも心地よく参加できる場になるために参加団体が学ぶ場を企画してほしい」という声をもとに実施に至った企画。当事者を中心に、市役所職員に登壇してもらったり、市の政策を紹介してもらったりと多面的にインクルーシブを考える場として企画・実施した。

1	vol.1「車椅子等、障がいがある方とのコミュニケーションの取り方」（講師：内堀章子氏）
2	vol.2「視覚障害の方の日常を体験しよう！」（講師：ブラインドITサポート町田）
3	vol.3「子どもが安心してきて心地よく過ごせる場づくりのヒント」（講師：横山雅代氏）
4	vol.4「障がいと共に地域で自立して暮らす」（講師：前田知子氏、前田のはら氏）
5	vol.5「性の多様性を知り、みんなで仲間になろう！」 （講師：星野みなみ氏、町田市男女平等推進センター職員齋藤和氏）



▲インクルーシブ研究会。対話や体験の時間を盛り込んだ内容で実施。

④ その他 【実績：10回開催】

1	公益財団法人トヨタ財団国内助成プログラム公募説明会@町田・助成金プチ講座
2	<新企画>市の情報ツールを知って、みんなで発信！（町田市広報課）
3	誰でももっと会議上手になれる！体験型ファシリテーション基礎講座
4	チラシ作りその前に！押さえておきたい5つのポイント
5	思わず参加したくなるチラシづくり講座
6	<新企画>学生の受け入れるときの工夫を考えよう～お互いが楽しく協働するコツ
7	2025年度日本郵便年賀寄付金配分説明会・助成金プチ講座
8	WAM助成 募集説明会&相談
9	「stand.fm（スタエフ）」体験会
10	スタッフ中島さえ修士論文発表 <新企画>研究テーマ「若者の地域参画がライフキャリアに与える影響」

イ 町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」実行委員会事務局業務

【目標：協働による企画の実施年10件

→実績：協働事業61事例実施、他イベントとの連携1件】

<会議開催>

準備会1回、実行委員会全体会議4回、アワード交流会1回

<情報発信>

ホームページ：イベント情報、参加団体情報、実行委員会開催レポート掲載

SNS：Facebook フォロワー 451件、X フォロワー 221件、

Instagram フォロワー 408件

メルマガ：実行委員会案内、報告等の内容を中心に発行 年23回発行

<本番>

市役所及び市内各地の会場での分散開催で「まちカフェ！」を実施。

日程：2024年11月30日（土）～12月8日（日）

会場：市役所・市内各所の会場

主催：まちカフェ！実行委員会

共催：町田市市民協働推進課

テーマ：未来への架け橋～まちカフェ！×〇〇＝∞（無限大）

参加団体数／実施企画数：

参加団体数146団体、冊子掲載144団体、企画実施131団体169企画

11／30（土）市役所庁舎133団体133企画

来場者数：11／30市役所会場8150人 その他1517人 合計9,667人

おうえん隊参加数：学生おうえん隊24名（2020年度よりのべ95名が参加）

おうえん隊7名・ワンデイおうえん隊50名、2団体

ウ まちカフェ！おうえん隊

【実施目標：学生おうえん隊の実施1回・ワンデイおうえん隊・取材おうえん隊各1回

→実績：学生おうえん隊の実施1回、ワンデイおうえん隊1回・取材おうえん隊1回（取材チームとして実施）】

学生おうえん隊は24名の学生が10団体で活動した。

誰もが参加しやすい、数時間からできるボランティア「ワンデイおうえん隊」は、「封入チーム」、「力持ちチーム」、「ご案内チーム」、「取材チーム」、「カメラチーム」と役割を明確にして募集を行った。ワンデイおうえん隊には、50名＋2団体（就労移行支援事業所他）が参加した。チラシ封入作業の日は、就労移行支援事業所ワン・ブリッジ町田の就

労シミュレーションというプログラムの一環で、チラシ封入作業の全体進行を担当していただいた。

(4) 地域活動に関する調査研究事業

ア 市内で活動する団体に対する調査

市内活動団体ヒアリング【目標 10 団体→実績 10 団体】

アンケート実施 目標 1 回→実績 1 回

イ 市内外中間支援組織へのヒアリング等 【目標 3 回→実績 5 回】

	ヒアリング先	開催場所	ヒアリング内容
1	多摩 8 市・市民活動情報連絡会	三鷹産業プラザ	今年度の重点事業について
2	一般社団法人まちにわひばりが丘	ひばりテラス	中間支援組織を運営するにあたっての経緯と重点事業
3	多摩 8 市市民活動情報連絡会	J:COM コール田 無	こんな相談に、こんな対応しました」／この取り組み（活動）が、 Best Hit!
4	いちのせき市民活動センター／一関 山目地域協働体／一関市	いちのせき市民活動センター／山目 市民センター	中間支援組織の地域支援に関する 取り組みについてヒアリング
5	ながの市民協働サポートセンター	対面／オンライン	ながの市民活動サポートセンター

ウ 支援体制の強化に向けた調査

【目標 2 団体→実績 2 団体（教育機関 2 件）、アンケート実施 1 件】

学生の地域活動を広げることを目的に学校法人東京町田学園町田デザイン&建築専門学校とサレジオ高専にヒアリングを実施。町田商工会議所会員事業所向けに「地域貢献に関するアンケート」を実施した。回答いただいた中で地域貢献の意向のある事業所に 2025 年度訪問予定。

(5) 資金調達支援事業

ア 資金調達に関する伴走支援事業 【目標 7 団体以上→実績 8 団体】

内訳：助成金公募説明会 3 回開催

助成金応募支援 8 団体

イ 地域活動を支える資金支援の仕組みの構築

「まちだづくり応援基金」による助成事業の第1期を実施し、10件の応募があり8件の活動に397,000円の助成（下記参照）を決定した。助成は、創設寄付者の方の意向を受けて「市内で活動する団体／個人の新しいチャレンジを支援する」目的で実施。助成決定後もサポートオフィスインターン生による取材、中間交流会、最終報告会、チャリティーイベント、報告書の作成など、助成対象活動の交流や成果報告の機会を積極的に開催した。

	団体名（個人の場合は記載なし）	代表者名	活動題目	助成金額 (円)
1	NPO法人アートネットまちだ	齊藤 弥	まちだのパブリックアート（街中で見かける彫刻・オブジェ）めぐり	50,000
2	アマタメ企画	田之上 亜季	現役の俳優とスタッフが、演劇初心者と共に自分だけのストーリーを舞台化するオムニバス演劇イベント、アマチュアシアター	47,000
3		近藤 弘晃	「町田で部活 大人も楽しむ部活動」サイト構築、広報の実施	50,000
4	色彩心理グリーンハートラボ	牛尾 眞澄	色彩表現によって心を元気にする活動	50,000
5		鈴木 めぐみ	介護に携わっている人がモデルとして出演するファッションショー	50,000
6	藤の台カルチャーボックス	吉崎 洋子	身近な地域で生の音楽・話芸・芸能に触れる機会を提供する	50,000
7	まちいろドロップス	文平 光子	2024年度まちカフェ！において、2名の外部講師による対話ワークショップの実施	50,000
8	like minds	岩渕 貴子	完全即興音楽を通じて聴く力と発信力を育てる	50,000

まちだづくり応援基金関連イベント等開催実績

	日程	内容	参加人数
1	4月4日	まちだづくり応援基金の公募説明会 @市民協働おうえんルーム	10
2	8～9月	サポートオフィスインターン生（さがまちインターンシッププログラム）による助成活動インタビュー／冊子作成	4
3	10月23日	まちだづくり応援基金中間交流会 @気の活用.com 道場	21
4	3月	まちだづくり応援基金最終報告書作成	—
5	3月30日	まちだづくり応援基金実施報告会&説明会／まちだづくりチャリティーイベント @Kichika	46



▲まちだづくり応援基金実施報告会&説明会／まちだづくりチャリティーイベント

(6) 法人の運営体制の強化

一時金支給を就業規則に追加した。

(7) その他

町田市市民協働推進課以外からの講師依頼や事業委託についても積極的に受け、自主財源や知見を増やすとともにサポートオフィスの認知拡大や多様な団体との関係構築を進めた。

	依頼元	内容	テーマ	担当
	謝礼・委託費あり			
1	町田市市民生活安全課	企画・運営	交通安全・防犯に係る協働事業企画運営業務	喜田、山根

2	昭和薬科大学地域連携センター	企画・運営	昭和薬科大学学生の地域活動体験プログラム	橋本
3	町田市中央図書館	運営支援	町田駅周辺図書館の集約に係る意見交換会の運営等支援業務	喜田、杉山、大谷
4	NPO法人ETIC.	運営支援	SIC 教育プログラム「チェンジメーカーズラボ in 多摩（通称：たまらぼ）」伴走支援	山根
5	株式会社 HITOTOWA	運営支援	つるかわ図書コミュニティ施設運営協議会イベント開催支援	喜田
6	練馬区地域文化部協働推進課	審査委員	「地域おこしプロジェクト」事業選定審査会	喜田
7	鎌倉古道歴史遺産の会	イベント進行	講演会「まちだの商店街は武士が馬駆けた だった?! ～鎌倉武士の時代にタイムスリップ!～」	杉山
8	聖学院大学	審査委員	聖学院大学ボランティア・まちづくり活動助成事業審査会	橋本
9	ユニコムさがみはらさがみはら地域づくり大学	講師	情報を届けたい人を徹底的に考える「ターゲットとペルソナ」／思わず参加したくなるスイッチを押す言葉「心に響くキャッチコピーを作る」	杉山
10	ユニコムさがみはらさがみはら地域づくり大学	講師	チラシづくりのための情報整理とデザインのコツ	杉山
11	法政大学ソーシャル・イノベーションセンター	講師	多摩キャンパスで学び近隣自治体で働く卒業生の視点から学ぶ	橋本
12	市民大学HATS	講師	自分の関心をアクションにする ～市民活動のはじめかた～	喜田

13	八王子市民活動協議会	講師	資金を集める～団体の資金作り アピールする助成金申請書の書き方	喜田
14	八王子市民活動協議会	講師	第11回NPO八王子会議&市民活動交流会「協力の作法 私たちはこんなことで困っている。誰か協力して！」	喜田
15	八王子市民活動推進部 協働推進課	審査委員	八王子市市民企画事業補助金	喜田
16	日本社会福祉教育専門学校	講師	ソーシャルワーク援助実習指導（中間支援組織から見る地域における課題解決の取り組みの充実と発展）	杉山
17	一般社団法人ユヌス・ジャパン	審査委員	「山形の暮らしとなりわいスケッチプロジェクト審査員	喜田
18	神奈川県ボランティア活動サポート課	審査委員	かながわ市民活動センター令和7年度アドバイザー相談業務企画提案募集	喜田
委託費・謝礼なし				
19	町田市選挙管理委員会事務局	企画・進行	選挙啓発バースデーカードのリニューアルにおけるワークショップの企画	橋本、中島
20	小川高校	企画・進行	ボランティア体験プログラム	橋本
21	南中学校	企画	職場体験受け入れ	橋本
22	南成瀬中学校	企画	まちカフェ！でのボランティア体験	橋本
23	鶴川地区協議会	講師・企画・進行	鶴川ハッピーフライデー内で「名刺作り講座」の実施および地域の中学生と大人の対話の場「トークフォークダンス」の進行役を担当。	喜田、杉山、橋本、大谷
24	みなみ地区社会福祉協議会	企画・進行	夢サポートひろば内で活動団体情報交換会、南地区おしゃべり会を実施。	喜田、杉山、橋本、大谷

25	NPOインターンシップラボ	企画・進行	学生交流会「NPOで働いている人ってどんな人？」	橋本
26	法政大学社会学部樋口ゼミ	講師	学生の社会的企業&交通問題	橋本、山根
27	法政大学 NPO 論	講師	町田市内のアート関係の NPO 活動について	橋本
28	法政大学現代福祉学部ボランティアアクション	講師	中間支援組織について	橋本

4 主たる成果

- ・活動の活性化につながった団体が47件。活性化の要素として例年「マッチング」が一番多かったが、今年度は、成果として「新規事業実施」が一番多くなった（29件）。「新たなチャレンジ」を目的したまちだづくり応援基金の実施及びまちだづくりカレッジ「ナリワイ」コースの本格実施をしたことによる成果である。既存団体による新規事業もあるが、全く新しい活動の立ち上げ支援も増え、地域活動の担い手の発掘につながった。
- ・教育機関からの相談も継続して多く、本年度は、新たに南中学校の職場体験を受け入れた。地域の活動団体と連携して、受け入れプログラムを実施したことにより団体の活性化にもつなげることができた。
- ・高校生、大学生が地域活動を体験するプログラムを4年以上実施してきたことにより、プログラムの改善点が見えてきた。具体的には、受け入れ先を広げるためには、受け入れの経験がない団体が受け入れやすいプログラム策定や支援が必要という認識を得た。
- ・まちだづくり応援基金を通じて、新たに寄付という地域活動参加の受け皿を構築できた。寄付者ヒアリングでは、寄付をきっかけに地域活動について調べるきっかけとなったという声もあり、寄付という参加の受け皿を広げることが地域活動参加を拡充すると再確認した。

以上